

# VMware vCenter Operations

## 仮想インフラストラクチャおよびクラウド インフラストラクチャ向けの 自動運用管理ソリューション

### 概要

VMware vCenter™ Operations は、パフォーマンス、キャパシティ、およびシステム構成管理を行うための、特許を取得している分析機能および統合アプローチを使用した自動的な運用管理を実現します。また、動的な仮想環境およびクラウド環境において、サービス レベルのプロアクティブな保証や、リソース使用率の最適化とコンプライアンス構成に必要な情報や視認性を提供します。

### 主なメリット

- 分析機能により、マニュアル操作のプロセスを自動化
- インフラストラクチャおよびアプリケーション全体の視認性により、問題を迅速に解決
- リソース使用の最適化と、仮想およびクラウド インフラストラクチャの最適なパフォーマンスをプロアクティブに保証
- 物理および仮想環境全体の、運用および規制に関するコンプライアンスへの準拠を即座に確認

## VMware vCenter Operations について

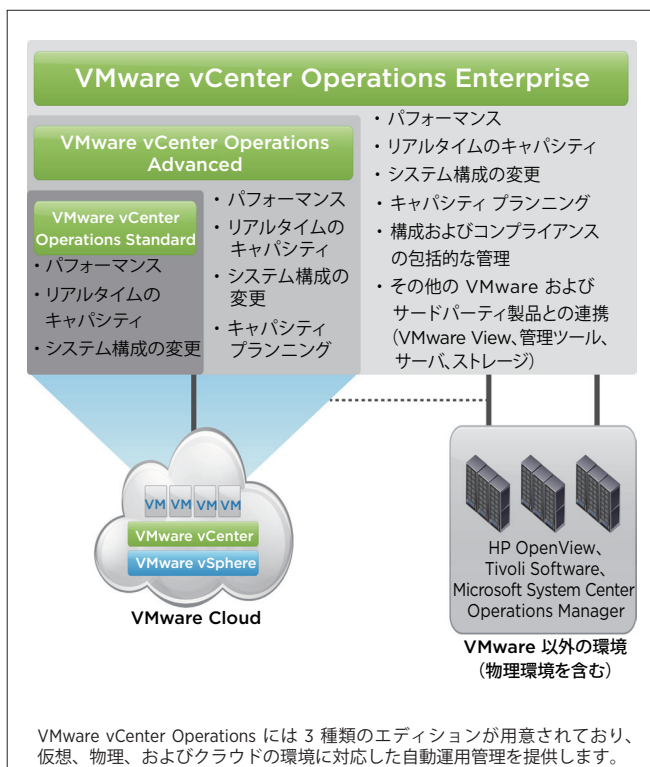
VMware vCenter Operations は、パフォーマンス、キャパシティ、およびシステム構成の統合管理機能を提供する、高度に仮想化されたクラウド インフラストラクチャ向けの自動運用管理ソリューションです。VMware vSphere™ との緊密な連携により、VMware 環境を最も包括的に管理できます。VMware vCenter Operations には 3 種類のエディションが用意されています。VMware vCenter Operations Standard は、VMware 製品の管理者が、プライベートクラウド内の VMware 環境のパフォーマンスをより効果的に管理するために設計されています。VMware vCenter Operations Advanced では、大規模な仮想およびプライベート クラウド インフラストラクチャにおける、パフォーマンスおよびキャパシティ管理が可能になります。VMware vCenter Operations Enterprise では、IT 運用チームは、ミッション クリティカルなアプリケーションとサービスや、それらを実行するハイブリッド（仮想および物理）インフラストラクチャのパフォーマンス、キャパシティ、システム構成、およびコンプライアンスをよりプロアクティブに管理できます。VMware vCenter Operations は、サードパーティの監視ツールと直接連携して、インフラストラクチャに対する完全な視認性を提供します。

## VMware vCenter Operations の使用

VMware vCenter Operations は、特許を取得している分析機能と優れた可視化機能により、パフォーマンス、キャパシティ、およびシステム構成の管理を自動化します。パフォーマンス データの収集と分析を行い、異常があるかどうかを確認し、パフォーマンス問題の根本原因を特定します。VMware vCenter Operations はキャパシティ管理機能を提供することで、リソースの使用を最適化し、ポリシー ベースの構成管理を行います。これにより、コンプライアンスへ準拠し、システム構成作業の急増や非準拠な構成を排除できます。

IT の運用およびインフラストラクチャを担当する部門は、VMware vCenter Operations を使用して、次のことを実現できます。

- マニュアル操作の排除：分析およびポリシー ベースの手法により、パフォーマンス、キャパシティ、およびシステム構成管理が自動化されます。
- 仮想インフラストラクチャのパフォーマンスをプロアクティブに管理：パフォーマンスについても、問題が発生する前にシステム警告メッセージを事前に取得します。
- 運用および規制に関するコンプライアンスへの準拠：ポリシーベースのアプローチと、設定なしですぐに利用可能な構成テンプレートにより、コンプライアンスへの準拠を自動的に適用します。
- リソース使用の最適化：包括的なキャパシティ管理により、仮想/クラウド インフラストラクチャの調整を行います。



## 主な機能

### インテリジェントな自動化機能

特許を取得した分析機能により、即座に利用可能な情報がスタック全体に提供され、マニュアル プロセスが排除されることで、最大の効率性と俊敏性が実現します。

- インフラストラクチャと運用の分析では、自動化された根本原因分析により、時間のかかる問題解決プロセスを排除できます。
- 必要に応じて分析を行うことで、特定分野の知識がなくても IT インフラストラクチャを最適化することができます。
- キャパシティ分析により、表計算のファイルや、細かなスクリプトの作成、または経験則さえも不要になります。「What-if」(状況を仮定した場合)のキャパシティ プランニング シナリオでは、時間のかかるモデルの更新は不要です。
- キャパシティ分析により、オーバプロビジョニング状態のリソースを特定し、コンピューティング能力をさらに効率的に使用するために、適切な調整を行うことができます。
- 自動的なプロビジョニングと構成分析により、不要な変更を検出し、IT 部門が運用上のベスト プラクティスや規制要件などのコンプライアンスを維持できるよう支援します。

### 包括的な視認性の提供

パフォーマンス、キャパシティ、およびシステム構成の問題やリスクの可視化により、動的なインフラストラクチャとアプリケーションの視認性が高まると、迅速な問題解決につながります。

- VMware vCenter Operations では、チーム全体のパフォーマンス、キャパシティ、およびシステム構成の管理が、リアルタイムで可能になります。
- パフォーマンス データは、健全性、ワークロード、およびキャパシティのリスクとして計測されます。これにより、IT 部門は、少ない労力で効率的に、パフォーマンスに関する問題の原因を特定できます。
- 即座に使用可能なテンプレートでは、セキュリティのベスト プラクティスや、ガイドラインおよび規制要件の強化によって、継続的なコンプライアンスへの準拠を保証できます。

### プロアクティブな管理

サービス レベルへの要求が高まり、変化が進む状況の中、自動的な運用への統合アプローチにより、IT 部門はさらにプロアクティブにパフォーマンスの最適化を維持できるようになります。

- 自己学習型のパフォーマンス分析機能により、エンド ユーザーに影響を与えるパフォーマンスに関する問題の原因を特定します。

- エンド ユーザーに影響が出る前に、キャパシティ不足を検出します。
- リアルタイムの統合パフォーマンス ダッシュボードでは、キャパシティおよびシステム構成変更のイベントにより、SLA (サービス レベル アグリーメント) の順守を支援する、プロアクティブな管理アプローチの使用が可能となります。
- 仮想環境でも物理環境でも、データセンター インフラストラクチャ全体で、ポリシー制御によるコンプライアンスへの準拠が保証されます。

	Standard	Advanced	Enterprise
パフォーマンス / ワークロード	○	○	○
キャパシティ	△	○	○
アラート	-	-	○
トラブルシューティング	-	-	○
修正	-	-	○
構成およびコンプライアンス	△	△	○
環境 / サードパーティ製品との連携	-	-	○

○: 含む、△: 一部機能を含む、-: 含まない

VMware vCenter Operations の各エディションは、仮想環境、プライベート / ハイブリッド クラウド インフラストラクチャ、およびハイブリッド (仮想および物理) インフラストラクチャとアプリケーションに特化した、さまざまな機能を提供します。

## 詳細情報

VMware 製品のご購入、または詳細情報については、次の製品 Web サイトをご覧ください。

<http://www.vmware.com/jp/products>

製品の仕様およびシステム要件の詳細については、VMware vCenter Operations のドキュメントを参照してください。

